

目指す学校像	一人ひとりが輝き、学ぶ喜びと笑顔があふれる学校
--------	-------------------------

重点目標	1 「じょうほくの教育」の推進(丈夫な心と体づくり、個性の伸長、学力の向上) 2 安全で美しい学校づくり(教育相談体制の充実、安全教育、安全管理の徹底) 3 地域に開かれた特色ある学校づくり(学校運営協議会等の有効活用) 4 教職員の指導力向上(教職員研修の充実)
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価		年 度 評 価		学校運営協議会による評価				
年 度 目 標		年 度 評 価		実施日 令和6年2月19日				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	(現状) ○令和4年度のさいたま市学習状況調査の「算数の勉強は好きですか」の項目では、肯定的な回答が市の平均より12ポイント下回っている(現6年生)。 ○令和4年度のさいたま市学習状況調査では、国語・算数共に、正答率が市平均より大きく下回っている。 ○日頃の学習の様子では、意欲的に学習に取り組む児童も多いが、集中力を欠いてしまう児童も少なくない。 (課題) ○学習全般に対する興味・関心が高まっておらず、児童が学習をすることの意義を実感できるようにすることが課題である。 ○基礎・基本的な学力の確実な定着を図ること。	・1人1台の端末を活用した授業の工夫・改善と、繰り返し学習の実施 ・学習への興味・関心を高め、達成感や充実感を味わえるような授業の工夫・改善	①「朝の学力アップタイム」を毎週水曜日に確実に実施し、繰り返し学習することで基礎・基本的な学力を向上させる。 ②1人1台の端末を活用した授業を毎日実施し、「アクティブ・ラーニング」型授業等を積極的に取り入れるなど、授業の工夫・改善を行う。	①学校評価に係る児童・保護者のアンケートにおいて、基礎学力に関するABの総計が昨年度の数値以上となったか。 ②市学習状況調査(算数)の平均正答率が令和4年度の数値以上となったか。	①学校評価の基礎学力に関する項目で、児童が88%、保護者は82%が肯定的な回答であり、昨年度を上回った。(昨年の数値は児童87%、保護者80%) 「朝の学力アップタイム」では、児童の学力に合わせた教材を使用するように工夫・改善し、計画的に実施できた。 ②市学習状況調査(算数)の平均正答率は令和4年度比+1.65%となった。 タブレットについては、現6年生の端末活用状況の調査結果では「ほぼ毎日使用している」「週に3回以上使用している」の合計が74.8%(5年次は22%)となり、昨年度を大幅に上回った。	A	・授業でのICTの利用は進んでいるが、「タブレットならではの効果的な活用」についてはさらに研究・実践を重ねていく必要がある。学校課題研究と関連付けて、研修を行っていく。 ・基礎学力の向上を図るために、ミライシーアのドリル学習やスタディサプリ等も活用しながら、個に応じた学習に取り組んでいく。	・学校課題研修の課題が算数科なのはなぜか。→昨年度までは国語科行っていた。市や国の学習状況調査の結果や、本校の児童の実態を踏まえて算数科とした。 ・教科によって児童の得意不得意があり、それぞれに課題があると思う。教科担任制の取組は効果的でよいと思う。 ・タブレットの扱いはよいと思う。一方で、児童が間違っただけの使い方をしないように指導していくことが課題かと思う。
2	(現状) ○令和4年度の学校評価に係る児童・保護者のアンケートにおいて、「喜んで登校しているか」の質問に肯定的な回答をした児童は78%、保護者は85%である。児童・保護者共に肯定的な回答は令和3年度とほぼ同じである。 ○昨年度、施設・設備の不具合等が原因と考えられる児童のけがは発生しなかったが、児童の不注意によるけがが多く見られる。 (課題) ○いじめに係る事案が少しずつ出てきているため、児童の表情や心の変化を見逃さないよう一人ひとりの状況を把握し、迅速に支援・相談できる体制づくりを進めることが課題である。 ○児童のけがが防止のためにも、危険な箇所について修繕を進め、また、児童にも自ら危険を予測したり、回避したりする力を育む必要がある。	・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実 ・施設・設備の管理の徹底による安全で安心な教育環境の充実	①情報端末を活用して、児童向けアンケートや面談等の記録を蓄積し、児童一人ひとりの状況を継続的に把握できるようにする。 ②いじめについては積極的に認知する。必要に応じてケース会議を行い、児童の状況を細やかに把握、分析することで、適切なタイミングで組織的に支援・相談を行う。	①学校評価に係る教員のアンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答が90%以上となったか。 ②学校評価に係る児童・保護者のアンケートにおいて、保護者の項目「先生の信頼」について児童の項目「先生に相談」について、肯定的な回答が90%以上となったか。	①学校評価の教職員の指導に関する項目で、教員の91%が肯定的な回答であった。児童のアンケート結果をもとに個人面談を行ったり、普段の生活においても積極的に声掛けをしたりするなど、一人ひとりに寄り添った指導を行った。 ②学校評価の保護者の「先生の信頼」に関する項目で、保護者の86%が肯定的な回答であった。また、児童の「先生に相談」に関する項目で、児童の89%が肯定的な回答であった。 生徒指導部会や教育相談部会において、児童についての情報共有を行い、対応について話し合うなどして、組織的に問題解決に向けて取り組んだ。	B	・いじめについては積極的に認知を行い、全教職員が情報を共有することで、一丸となって解消していく。また、いじめを防止するために、教職員のみならず、児童の取組についても推進していく。 ・スクールダッシュボードを活用し、児童一人ひとりの健康状態や授業の取組状況を常に把握し、必要に応じて面談等を行い、問題解決にあたる。	・不登校児童へのフォロー体制はどうなっているのか。→授業についてはオンラインを活用するなどして、学校とのつながりが切れないようにしている。また担任との連絡を通して、児童自身や保護者をS CやS Wとつなげるようにしている。併せて「Sola る一む」も活用しながら、引き続き児童が安心して通えるような体制を整えていく。 ・どんな些細なことでもよいが、学校に来るきっかけとなるものがあればよいと思う。
3	(現状) ○昨年度の学校運営協議会にて、目指す児童の姿について協議し、共有した。学校・家庭・地域が協働して何ができるのかについて話し合いを行ったが、具体的な取組にまで発展させることができなかった。 (課題) ○学校運営協議会での話し合いの内容について、家庭や地域にどのように周知し、また、「学校・家庭・地域の協働」と観点でどのように具現化していくのか、さらに熟議をする必要がある。	・児童・保護者・地域の参画・協働に基づいた信頼される学校づくりの充実 ・家庭・地域への積極的な情報発信と学校公開	①学校運営協議会を年3回実施する。熟議を重ね、その実現に向けた方策を定め、継続的な取組を進めていく。 ②信頼される学校づくりの実現に向け、教職員に教職員事故や授業実践等に関する研修を実施し、教職員事故の防止や「よい授業」を実践する。	①学校運営協議会において、実現に向けた方策を打ち出し、継続的な取組を進め始めることができたか。 ②学期に1回の研修を実施し、教職員事故を起こさないための取組や、「よい授業」を意識した授業を実践できたか。	①学校運営協議会を3回実施し、「いじめの防止について～学校・家庭・地域ができること～」をテーマに熟議を行った。その中で挙げられた意見を受け、その目標を達成すべく、日々の教育活動に取り組んだ。 ②教職員事故に関する研修や日々の注意喚起を行ってきた。教職員事故の発生はゼロである。教職員は「よい授業」の実践に向けて、4つの因子を常に意識しながら、教材研究や授業に取り組んだ。特にICTの活用について、自身の指導力向上に努めた。	B	・学校運営協議会において熟議した内容について家庭や地域にどのように周知し、どのようにしたら協働できるのかを検討していく。 ・教職員の信頼向上のため、定期的に教職員事故防止や「よい授業づくり」のための研修を行っていく。	・学校HPについて、保護者が「見たい」と思える工夫をしてほしい。学校HPに児童の活動が載っていると、保護者は見るようになるのではないかと。 ・手紙の配布の仕方について、近隣校では「スクリーン」を使用しているところもあるので、導入を検討してはどうだろうか。
4	(現状) ○ICT活用についての研修を進めてきたことにより、多くの教員がタブレット端末等を活用した授業をほぼ毎日展開できている。 ○教科指導や生徒指導等において、教職員間で情報を共有しながら連携した指導を行っている。 (課題) ○授業等でのICTの活用について、教職員間で差がある。 ○教職員の経験不足により、生徒指導や保護者への対応がうまくできないことがある。	・ICT活用能力の向上 ・指導力向上のための教職員の積極的な研修	①エバンジェリストやICTリテラシーが高い教職員が講師となって学期に1回の校内研修を実施する。また、授業で有効なコンテンツ等を共有できるようにする ①キャリア振り返りシートを基に自身の強みや弱みを把握し、強みをより伸ばしたり、弱みを克服したりできるよう積極的に研修を受講する。	①学校評価に係る児童・保護者のアンケートにおいて、「授業が楽しい」に関するABの総計が昨年度の数値以上となったか。 ②学校評価に係る保護者のアンケートにおいて、「学校公開」に関するABの総計が昨年度の数値以上となったか。	①学校評価の「授業が楽しい」に関する項目で、児童が84%、保護者は82%が肯定的な回答であった(昨年の数値は、児童が82%、保護者は81%)。エバンジェリストを中心に、ICT機器の活用に関する校内研修をこれまで2回実施した。また、放課後に自由参加によるミニ研修会を随時実施した。	A	・ICTを活用した授業公開を全教職員が1回以上行い、その活用方法や指導方法について研究を進めていく。 ・授業等でのICT活用事例を共有できるようにする。	・学習指導については把握できない部分があるが、生徒指導面では丁寧すぎるくらいに対応してもらっている。特にけがやトラブルなど、必ず保護者に連絡があるので、きめ細かに見ていただいている安心感がある。
					①学校評価の保護者の「教職員の指導」に関する項目で、保護者の86%が肯定的な回答であった(昨年の数値は84%)。5月の教職員の面談において、しっかりと時間を確保して受講予定の研修について確認を行い、1月の面談では1年間の研修成果について確認した。	B	・働き方改革の観点からも、引き続き、教材・教具の共有や行事の精選、会議の効率化等を進めていく。 ・教職員自身の弱みや強みをしっかりと確認して研修の受講を奨励し、さらに指導力を高めていく。	